

地域の産業を街の魅力創造に活かす②
民間事業者による地域活性化事例
台東モノマチにおける「モノづくり」イベントについて
(台東モノマチ実行委員会)

1. 台東区南部地域の状況

御徒町・蔵前・浅草橋周辺の台東区南部地域は、上野・浅草などの「いわゆる」観光地では無く、一般的には観光客誘致に向けた手段が見出し難い地域と考えられる。

しかし、そのような環境において、地域外より多くの人が集まる仕組みが構築されている。それは台東モノマチのイベントである。

2. 地域の強みを活かしたイベントの実施

台東モノマチで注目されるのは、地域の強みを活かした取り組みである点にある。台東区南部地域は古くから皮革製品をはじめ、様々な産業の製造・卸売業者が多く、「モノづくり」に関連する事業者が多く集積する地域である。そこで、様々な事業者が協力して、強みを活かし「町」と「モノづくり」の魅力に触れられるイベント「台東モノマチ」が実施されることとなった。本イベントは2011年にスタート以降2018年までに10回開催されており、継続性も保たれている。

なお、台東モノマチは、参加各企業がビジネスパートナーと出会うきっかけづくりが主目的であり、観光を主眼に置いたものではない。

しかし、モノづくり施設の見学や体験に興味のある一般客も広く受け入れているため、期間中に述べ10万人が参加する盛大なイベントとなっている。

3. 民間の力が地域を牽引

台東モノマチの大きな特徴は、民間主体でイベントが実施されている点である。

イベントは、若手クリエイターの創業支援を目的として台東区が2004年にオープンした「台東デザイナーズビレッジ」を中心に開催されているが、イベント自体は行政が主導していない。

イベントは、施設に入居するクリエイターと地元住民との交流を目的として開催されたことにはじまり、今では地域内から約300社のモノづくり事業者があつまり、さらには約100店の飲食店も協力する大規模なものになっている。その結果、イベントで提供されるモノづくり見学や体験コンテンツは、革細工などのアクセサリー・小物からシャンプーなどの日用品まで多岐に渡り、更にはトイレ休憩などの運用面も含め飲食店などから協力が得られるなど、地域内の周遊が促進される環境が生まれている。

また、イベントの財源についても、行政の補助金にはほとんど頼らず（区からの補助金は財源の1/10程度）、大半を会費・協賛金にて確保しており、参加者による自主運営を原則とする台東モノマチの特徴がうかがえる。

更に、イベント準備においても、必要なものを運営委員会内で自己調達などにより行っている点も注目される。例えば、当日運営などで必要な人材はボランティアの募集により確保しており、また、PR用の広報物はモノマチに参加する関係者が半ばボランティアで制作を引き受けており、参加者の強みなども活かして主体的にイベント準備が行われている。

このようにして民間の力により継続的なイベント開催が行われているが、今後もイベントの主旨に賛同し集まった民間の参加者がお互いに協力し合いながら、地域外の人々を惹きつける活動を行っていく。

<おわりに>

先にも触れたが、台東モノマチは、参加企業がビジネスパートナーを獲得することが主目的であり、観光振興を目指して行っているものではない。

一方で、地域内の多様な民間事業者が連携することで、交流人口が増加し、地域の産業振興につながっている点は観光が目指す理想的な取り組みといえる。更に、イベントが大きな観光産業の無い地域で生まれた点においても様々な地域で参考にできる要素は大きいと考える。

(地域振興部事業課 亀島)

◆関連リンク：台東モノマチ：<http://monomachi.com/>